

<p><研究課題名></p>	<p>RF-1009</p>	<p>サンゴ骨格を用いたサンゴ礁環境に及ぼす人間活動の影響評価に関する研究</p>		
<p><研究概要></p> <p>本研究では主に沖縄本島を対象として、サンゴの飼育実験によって赤土や生活廃水、また重金属類の添加、さらに高温ストレスを与えるなどしてポリプ骨格（稚サンゴ）の飼育を行い、どのような環境負荷要因によって骨格にどのようなシグナル（骨格の粗密や特定の化学成分の増減など）が刻まれるかを、一つ一つ明らかにしていく。</p> <p>（1）飼育実験に基づくサンゴの成長に及ぼす環境負荷の影響評価 琉球大学熱帯生物圏研究センター瀬底研究施設において、サンゴ（稚サンゴ）へ負荷要因を与えた飼育実験システムを確立させる。サンゴ試料は沖縄本島における優先種の一つであるミドリイシ属、またハマサンゴ属を主に採取し実験に供する。人為的な環境負荷要因としては、沖縄本島から採取した赤土や工業・生活排水などを添加する。</p> <p>（2）環境負荷要因に対するサンゴ骨格の化学的・物理的応答に関する研究 ポリプ骨格のような微量試料でも数pptレベルでの微量元素の測定ができるような測定法を開発し、飼育実験によって作成されたポリプ骨格について、誘導結合プラズマ質量分析法（ICP-MS）による微量元素測定を行う。また、走査型電子顕微鏡（SEM）を用いた骨格の微細構造の観察や骨格密度の測定も行う。そして、沖縄本島において赤土など人為的影響を強く受けるサンゴ礁海域より長さ1m程度のハマサンゴコアを採取し、過去約100年間の年輪解析を行う。</p>				
<p><研究代表者></p>		<p>井上麻夕里</p>		<p>東京大学・大気海洋研究所・助教（32才）</p>
<p>No.</p>	<p>サブテーマ名</p>		<p>氏名</p>	<p>所属機関名・部局・役職名</p>
<p>(1)</p>	<p>飼育実験に基づくサンゴの成長に及ぼす環境負荷の影響評価</p>	<p>○</p>	<p>井口 亮</p>	<p>琉球大学・熱帯生物圏研究センター・非常勤研究員</p>
<p>(2)</p>	<p>環境負荷要因に対するサンゴ骨格の化学的・物理的応答に関する研究</p>	<p>◎</p>	<p>井上 麻夕里</p>	<p>東京大学・大気海洋研究所・助教</p>